



緑がまぶしい！福本白兔神社の社 朝朝ウォーキングイベントで

うさぎで八頭を盛り上げよう！



～やずうさぎプロジェクト（八頭町）～

「やずうさぎプロジェクト」ってなあに？

みなさんよくご存知の「因幡の白兔伝説」。それとは異なる「もうひとつの白兔伝説」が八頭町にあります。この伝説をいかして八頭町を盛り上げよう、その思いで地元有志がプロジェクトチームを結成しました。令和3年5月に活動を開始した「やずうさぎプロジェクト」です。実はこのプロジェクトの源流はずっと以前にさかのぼります。

活動の始まりは約20年前

今から約20年前の平成16（2004）年頃に、^{あたらし}新誠さんは「もうひとつの白兔伝説」の存在を知り、^{まこと}びっくり仰天しました。子どもの頃の遊び場が「白兔神社」跡だとわかったからです。これを埋もれさせてはいけない、そして謎を明らかにしたいと思ひ歴史研究と講演活動を始めました。

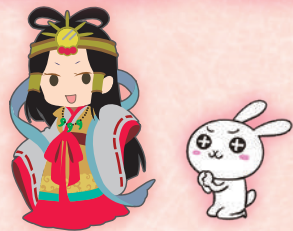
平成17（2005）年には、「平成の大合併」で八頭町が誕生。「町役場や観光協会は、まちがひとつに

まとまるものがほしい。次のうさぎ年の2011年に八頭町を白兔伝説のまちにしよう、という気運が盛り上がりました」と代表の福本揚子さんは振り返ります。この時「もうひとつの白兔伝説」の絵本を作り、町内の子どもたち全員に配布しました。また、平成21年には、JR 郡家駅前に「神ウサギ」の石像が設置されました。

うさぎ年なのに事業ができない

ところが平成23（2011）年のうさぎ年、思わぬ事態が起きました。3月11日の東日本大震災です。死者行方不明者2万2千人以上、福島第一原発での事故など未曾有の大災害となり、全国で自粛ムードが広がりました。これを受けて八頭町の白兔伝説事業も中止されました。それでも、平成24年にはマスコットキャラクター「やずぴょん」が誕生。また津須早苗さんは白兔伝説ガイドの養成を、新さんは講演活動を地道に続けました。

もうひとつの 白兔伝説



その昔中山（八頭町）に天照大神が降臨され、しばらく留まられたいと仮の宮を建てる場所を探していたところ、一匹の兎が現れ、天照大神の道しるべをしました。兎は天照大神の衣の裾をくわえ、中山から尾根伝いに靈石山（八頭町・鳥取市河原町、標高334m）の広い窪地のふたつ石があるところ（伊勢ヶ平）へ誘い、姿を消しました。天照大神はそこに宮を営みしばらく留まられた後、靈石山にある大きな石の上（御子石）に冠を残して現在の氷ノ山を越え元伊勢（京都府福知山市）の方へ去って行かれたとのこと。

「やずうさぎプロジェクト」ついに始動！

そして令和3年5月、「やずうさぎプロジェクト」がついに始動します。目標は令和5年のうさぎ年に、八頭町をうさぎで盛り上げること。メンバーは八頭町観光協会役員の中村裕司さんと福本揚子さん、郷土歴史研究家の新誠さん、白兔伝説ガイドの会会長の津須早苗さん、青龍寺住職の城光寺照進さん、そして地域おこし協力隊員の高野実咲さんと中村聡志さんの合計7人です。

メンバーは毎月のように青龍寺（本堂にもとの白兔神社社殿が移築されている）に集まり、アイデアを出しあい、多彩なイベントを企画したり、うさぎにちなんだグッズを考案しました。まずおこなったのが白兔伝説観光ガイドの養成講座です。続いて「川辺の道」ウォーキング・サイクリングルート

のマップ作り。白兔伝説に関係のあるエリアをこう回ったらいいよという提案です。

7・8月の「うさぎの夏詣」では、青龍寺の縁側を風鈴でいっぱいにしたり、メンバーの強い要望で御朱印も作りました。御朱印人気はすごく、1月から3月はたくさんの方で賑わいました。「私だけではこれだけのアイデアは出せません。風鈴のことも。だからみんなで動かなきゃと感じました」と城光寺さんはプロジェクトの意義を語ります。

このほか毎月のように切れ目なくイベントをおこなっています。また、「オリジナル一言おみくじ」や「うさぎ結び（水引）」などの関連グッズを製作して、JR 郡家駅1階の「ぷらっとぴあ・やず」で販売しています。2階はうさぎでいっぱいの「うさぎテラス」になりました。



いま人気の御朱印
(夏詣バージョン)



花水イベントでおしゃれ
神ウサギの石像
(郡家駅前)

一言おみくじ
深い言葉に出会えます



青龍寺の廊下いっぱい
風鈴まつり

うさぎで町が動いている

新さんはこう語ります。「プロジェクトが始まって、参加者の幅が広がりました。お年寄りから子どもまで、四季折々の風景をウォーキングなどで楽しんでおられる。また、やずびよんが来ると子どもたちのテンションが上がります。お年寄りたちも自分の町を初めて発見したように喜んでおられる」。

「イベントでは八頭町商工観光室がバックアップしてくださり、白兔ガイドさんも手伝ってくださる。何より地元福本集落の方たちが協力的。年末年始の、「うさぎの年越し・初詣」では、ライトアップしたり紅白ぜんざいを振る舞ってくださったり。その結果、あの小さな白兔神社に400人くらいの方がお参りに来られた」と高野さんは感謝します。

プロジェクトが展開するにつれて、町の人たちの意識が変化しました。これを「うさぎで町が動いている」と中村裕さんは表現します。



年越し青龍寺うさぎの雪灯籠づくり(左)とライトアップ本番(右)

うさぎ年が終わっても

「今年とうさぎ年で注目を浴びましたが、次のうさぎ年までどうつないでいくかが課題です。今年作ったいろんなことが土台となって、ひとつでも多く続けていきたい」と高野さん。「うさぎ年は終わっても、うさぎが好きで『うさぎくり』で動かれる方はずっといると思います」と手応えを感じた中村裕さん。「12年後は、たぶん次の世代にバトンタッチするのですが、12年前にはこんなことをやったよと伝えられるぐらいにはなっていたと思います」と先を見すえながら気持ちを引き締めていました。

やずうさぎプロジェクトのみなさん



左から 城光寺照進さん(青龍寺住職)
新 誠さん(郷土歴史研究者)
高野 実咲さん(八頭町地域おこし協力隊員)
福本 揚子さん(八頭町観光協会副会長)
中村 裕司さん(八頭町観光協会事務局長)

このほかのメンバー

津須 早苗さん(白兔伝説ガイドの会会長)
中村 聡志さん(八頭町地域おこし協力隊員)



「もうひとつの白兔伝説」への誘い

📖 **イナバノシロウサギの総合研究** 著者：石破 ひろし

イナバノシロウサギがいたのは古代因幡国八上郡中山付近(現八頭町)であると説く。ここから「もうひとつの白兔伝説」が始まった。

📖 **山の白兔伝説の謎に迫る** 著者：新 誠

『イナバノシロウサギの総合研究』を読んで衝撃を受けた著者が、18年間研究を続けて成果をまとめた。八頭町の「白兔伝説」を歴史的に実証しようと試みた書物。

📖 **白兔伝説の里八頭町 しろうさぎの道しるべ** (絵本)

文：八頭町観光協会 絵：アニメート

「もうひとつの白兔伝説」を子どもにわかりやすく解説した絵本。大人も楽しく読める。



問合せ先

八頭町観光協会 **やずうさぎプロジェクト**

〒680-0461 八頭郡八頭町郡家 648-6 「ぶらっとびあ・やず」内

電話 0858-72-6007

メール yazukanko@sage.ocn.ne.jp



ホームページ



フェイスブック



インスタグラム